七

ひがし茶屋街の笛・太鼓・三味線

「金沢市、ひがし茶屋街。紅殻格子の家々が軒をつらね、ときおり三味線や小唄の粋な調べが格子の間から聞こえてきます。百万石祭りが近づく頃、総稽古の調べはいっそう華やかに…。」

かいせつ

金沢市北部を流れる浅野川の右岸に「ひがし茶屋街」があります。石畳の道の両側には、紅殻格子が軒を連ね、昔の茶屋街の面影を色濃く残しています。ひがし茶屋街の歴史は古く、藩の政策によってお茶屋を集めて町割りし、現在地に落ち着いたのは文政3年（1820年）にさかのぼります。それだけに格式も高く、一見の客は断るしきたりは今も変わっていません。茶屋街の風景は「町並み保存」の文化財として保護され、そこだけタイムスリップしたかのような雰囲気を漂よわせています。あたり一帯は、日中は閑散とした様相ですが、夕暮時ともなるとにわかに華やいできます。軒灯がともる通りを芸妓さんたちが行き来し、どこからともなくかすかな三味線や太鼓・笛、小唄の粋な調べが聞こえてきます。